

# 1 年生 国語科指導案

平成29年11月22日(水) 5校時  
男子10名 女子7名 計17名  
授業者 池内 けいこ

1. 単元名 「おはなし どうぶつえん」をつかって、本のしょうかいをしよう  
(「本はともだち 本をえらんでよう」「ずうっと、ずっと、大すきだよ」 光村下1年)

## 2. 重点指導事項

C 読むこと (1) オ 文章の内容と自分の経験とを結びつけて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。

## 3. 言語活動

(2) オ 読んだ本について、好きなところを紹介すること。(おはなし どうぶつえん)

## 4. 指導目標

- 本を紹介し合うことに興味をもち、読みたい本を進んで選んで読もうとしている。(関・意・態)
- 文と文の続き方に注意しながら、紹介したい本のカードを書くことができる。(書くこと)
- 文章の内容と自分の経験とを結びつけて、すきなところを見つけながら読むことができる。(読むこと)
- 本を紹介するときに必要な言葉を理解し、それを使うことができる。(知識・理解・技能)

## 5. 単元について

### ○ 児童観

- ・本が大好きな児童が多いが、読むより、見て楽しむことが多い。(拾い読み程度しかできない児童が5名)
- ・自分の意見や考えに理由をつけて「話す」ことは、全員が「話す・聞く」領域の学習や学活の話し合い活動で経験しているが、理由を「書く」経験はまだない。教師が書いた理由をなぞり書きする程度しかできない児童が4名いる。
- ・短い話であれば自分で読んで大体的内容を理解できる児童が9名いる。しかし、登場人物の気持ちになって読んでいる児童は少なく、前単元「くじらぐも」の学習で、登場人物の気持ちになって読む楽しさを初めて経験した。
- ・自分の考えで文を書けない児童が多い。行事などの感想を書く時には、まず話し合いで出た発言を板書し、自分の感想に合う文を選ばせて書き写させるよう、手立てを取っている。また、国語の学習で、初発の感想を書く時には、言葉の例や文型の掲示物を活用させている。

### ○ 教材観

- ・本教材「ずうっと、ずっと、大すきだよ」には、人間にとって身近な動物である犬と少年との心の交流が描かれている。柔らかなタッチの美しい挿し絵を手がかりに、興味をもって読み進めていくことができる作品である。
- ・好きな本の紹介は、「題名」「登場人物」「好きなところ」を書くなど、児童の伝えたい思いに合った構成である。紹介するという目的意識や相手意識をもって、「書く」学習を進めることができる。
- ・話のテーマ、文体、長さなど、既習の作品との違いがあり、多少の抵抗が予想される。しかし、既習単元の「むかしばなしがいっぱい」でいろいろな本を読み、読んだ本を記録したり、感想を書いたりした経験を生かし、好きな作品を選んで読んだり、紹介したりすることは、読書意欲の喚起や読む力の向上につながる。
- ・特に、「好きなところ」を見つけて感想を書く時には、必要な言葉や文型の重要性を理解することができる。

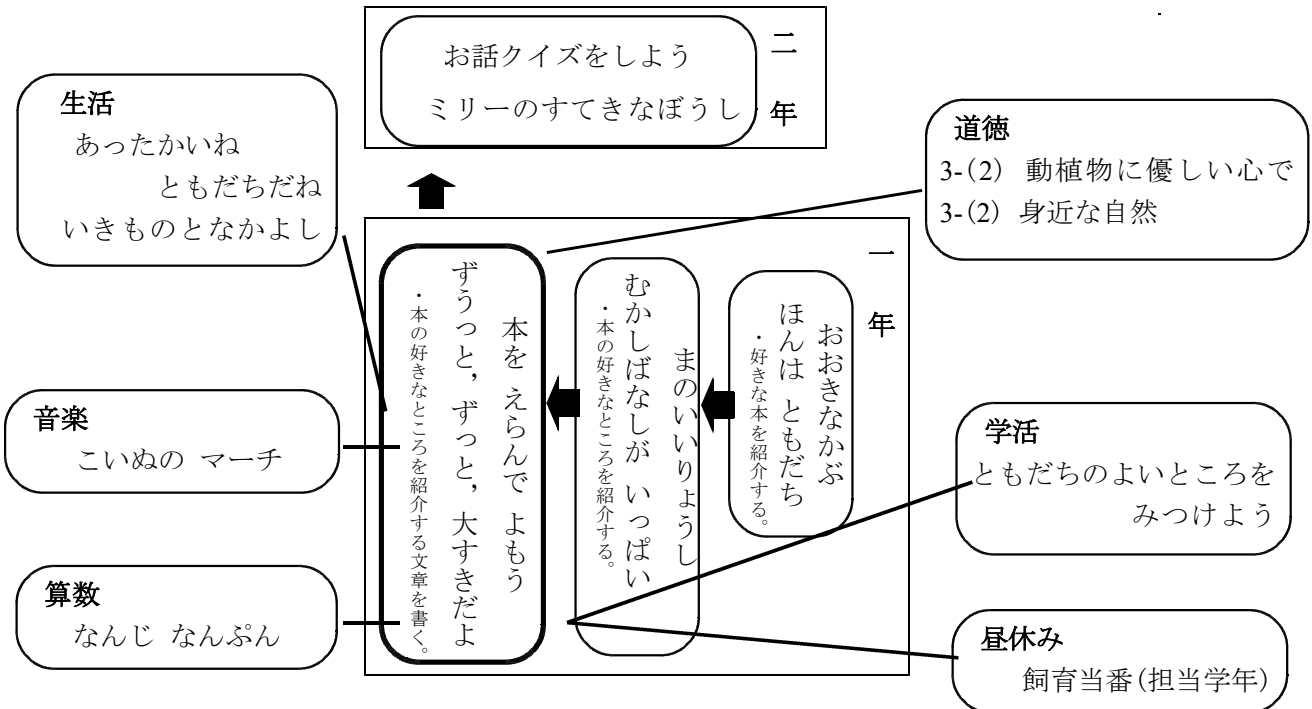
### ○ 指導観

- ・教材文「ずうっと、ずっと、大すきだよ」との出会いをきっかけに、題名や表紙の絵・挿し絵を見て、「動物」が出てくる絵本の選書を経験させ、「すきな絵本」の紹介カードを書いて掲示する「おはなし どうぶつえん」をみんなで作成する活動を設定する。選書の際は、学校司書との連携や市内の図書館も活用し、学習後の積極的な読書活動につなげる。
- ・紹介するという目的意識や相手意識をもたせることにより、書く学習に主体的に取り組む児童の姿を目指す。「おはなし どうぶつえん」の完成イメージと作成後に読書集会や全校児童との交流につながることをはっきりと理解させることで、意欲的に学習に取り組む児童の姿を期待している。
- ・初発の感想を書かせ、その感想をもとに、学習課題、学習計画へとつなげる。初発の感想で出た「どうして」についてみんなで話し合ったり、題名読みをしたり、挿し絵から分かることを話し合ったりする学習を通して、すきなところを見つけながら読む楽しさを味わわせる。
- ・自分で選んで読んだ絵本の「題名」「作者」「登場人物」「好きなところ」「好きな理由」を書かせることを通して、本を紹介するときに必要な言葉の理解とその活用に対する関心をもたせる。

## 6. 評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技術
○ 本を紹介し合うことに興味をもち、読みたい本を進んで選ぶとしている。	○ 文と文の続き方に注意しながら、紹介したい本のすきなところをカードに書くことができる。	○ 場面の様子や登場人物の行動について想像を広げ、すきなところを見つけながら読むことができる。	○ 本を紹介するときに必要な言葉を理解して使うことができる。

## 7. 他教科, 他の領域, 他の単元とのつながり



## 8. 指導計画 (全8時間)

過程	時間	ねらい	主な学習活動	評価規準 (【 〽️ ]) と 指導上の留意点 (・)
	学活	(学習前) ・「読書の秋, 本に親しもう」で図書室で読みたい本を1冊選んで借りてくる。	・貸出カードをもとにどのような本を何冊借りているかをふり返る。 ・学校司書さんによるブックトークを聞く。 ・「本に親しもう」という意欲と本への関心を持ち, 読みたい本を1冊選んで借りる。	・今のペースでは1年生の読書目標年間100冊を越えられない人がいることや, 図書室に行く回数が少ない人, 絵や写真を見て楽しむ図鑑のような図書や同じシリーズ本ばかりを借りている児童が多いことに気付かせる。
一次 必要感をもつ	1	・「おはなし どうぶつえん」を作り, 学級や全校のみんなと交流することを知り, 教材文「ずうっと, ずっと, 大すきだよ」と出会い, 学びへの意欲をもつ。	・「題名」や「表紙の絵 (挿し絵)」が「選書の観点」となっていることを認識する。 ・教科書を見た後, 本単元のめあてを確認し, 単元の学習の見通しやゴールのイメージをもつ。 ・「題名」や「表紙の絵 (挿し絵)」について話し合う。 ・教材文通読後, 初発の感想を書く。 ①本文を読む。 ②感想の文型を知る。 ③感想を書く。 (思ったこと・「どうして…」) 【ボ】 訳者 【ツ】 紹介カードに題名と作者・訳者を書く。	・本単元の学習, 読んだ絵本の紹介により, 絵本の魅力に触れさせることで, 読書量の増加をめざす。読書集会での本の紹介を通して交流の相手意識を学級や全校のみんなへ向ける。 ・感想を書く時に使うとよい言葉を掲示し, 活用を促す。 ・「どうして」は, 課題につながりやすいことを少し意識させて, 初発の感想を書かせる。 【関】 ・「訳者」について, 「作者」との違いから理解する。 【中】「久山 太市さんは この絵本の何

		<p>宿借りて帰った絵本を読み、「作者」(「画家」「訳者)」を書く。</p>	<p>をした人かな。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語の文章で書かれた絵本「I'll Always Love You」を見せて、この絵本を日本語の文章にした人が久山 太市さんであることに気付かせる。</li> <li>・「訳す」「訳者」という言葉を説明する。</li> </ul>	
二次 言葉 の力 を高 める	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の見通しをもつ。</li> <li>・新出漢字を習得する。</li> <li>・難しい言葉の意味を理解する。</li> <li>・音読して理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の計画を立て、本時が漢字や言葉の意味、登場人物を学ぶ時間であることを理解する。</li> <li>・漢字ドリルを用いて、新出漢字を練習し、身につける。</li> <li>・難しい言葉を見つけて、その意味を考える。</li> <li>・登場人物について理解する。</li> <li>・場面分けをする。</li> </ul> <p>示登場人物</p> <p>つ紹介カードの「登場人物」を書く。</p> <p>宿借りて帰った本を読み、「登場人物」を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初発の感想で出た疑問をもとに立てた読み取るための、学習計画を掲示し、本単元の学習の見通しを持たせる。</li> <li>・あらかじめ押さえておきたい難しい言葉を、列挙しておく。</li> </ul> <p>【言】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「登場人物」とは、「台詞」や「動作」「気持ち」が書かれてある人や動物であることを押さえる。</li> </ul> <p>中「本文に他の犬や子ねこ、きんぎょ、挿し絵にはその他にカメやオウムなどたくさん動物が描かれているけれど、登場人物ではないのかな。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本の紹介では「主な」登場人物のみ書けばよいことも押さえる。</li> </ul>
	3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初発の感想をもとに、みんなの「どうして」について話し合い、文章の内容と自分の経験とを結びつけて、すきなところを見つながら読む。I</li> </ul>	<p>課 どうして「エルフは、ぼくの犬」なのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「家族」について自分の経験と結びつけて読む。</li> </ul> <p>ま 「エルフは、ぼくの犬」なのは、小さいころから、いつもいっしょに過ごしたから。</p> <p>示挿絵</p> <p>つ自分が昨日読んだ絵本の挿絵から分かる大事なことを見つけて書く。</p> <p>宿借りて帰った本を読み、「いいな」と思ったこと、その理由を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の言葉から「ぼくの犬」だと言っている理由となることを挙げさせる。</li> <li>・「ぼく」と「エルフ」の絆についてしっかりと読み取る。</li> <li>・理由だと考えられるところにサイドラインを引かせる。</li> <li>・大事な言葉について話し合い、くり返し出てくる言葉に気付かせる。</li> </ul> <p>中挿絵では、どんなことが分かるかな。</p> <p>【読】</p>
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初発の感想をもとに、みんなの「どうして」について話し合い、文章の内容と自分の経験とを結びつけて、すきなところを見つながら読む。II</li> </ul>	<p>課 エルフが死んだとき、どうして「ぼく」はほかのかぞくより「きもちがらくだった」と思ったのだろうか。</p> <p>ま 「ぼく」がほかのかぞくより「きもちがらくだった」のは、まいばんエルフに「ずうっと、大すきだよ」と気持ちを言葉で伝えていたから。</p> <p>示 どうして</p> <p>つ 「一番」いいなと思う台詞はどれかと「どうして」そんなことを言ったのか(その台詞にはどんな気持ちがかめられているか)について話し合う。</p> <p>宿借りて帰った本を読み、「どうして」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ぼく」と「ほかのかぞく」の行動や気持ちを比較し、それがエルフが死んだ時の気持ちに、どう影響しているか考えさせる。</li> <li>・「ぼく」がしたこと、ほかのかぞくがしたこと、青のサイドラインを引いて比べ、考えさせる。</li> <li>・二の場面の元気なエルフと「ぼく」の家族から、「ぼく」の行動と家族の行動を比較して読ませる。</li> </ul> <p>中「なぜ、ほかのかぞくは「ぼく」と同じことをしなかったのかな。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物語を読む時に、「どうして」について考えること、また「比べて読む」ことは深い読み取りの有効な手段であることに気付かせる。</li> </ul>

		と疑問に思ったこと、自分なりのその答えを考えて書く。	【読】
二次 言葉の力を高める	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>初発の感想をもとに、みんなの「どうして」について話し合い、文章の内容と自分の経験とを結びつけて、すきなところを見つけながら読む。Ⅲ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ぼく」の言動について「どうして」そう言ったのか、そうしたのかを考えることは、「ぼく」の気持ちを想像することにつながることを理解させる。</li> <li>物語を読む時に、「どうして」を見つけ、その理由を考えることは、深い読み取りの有効な手段であることに気付かせる。</li> <li>「エルフは気にしないってわかっていたのに、どうしていないと言ったのか。</li> <li>登場人物の「行動」から、「気持ち」を読み取ることができることを確認する。</li> </ul>
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面の様子や登場人物の行動について想像を広げながら読み、気に入ったところについて書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「好きな場面」のほか、「好きな文章」や「好きな台詞」を書いてよいことを確認する。</li> <li>文型、「わけは〇〇だからからです。」「どうしてかという〇〇だからです。」を思い出させる。</li> <li>先に「好きな理由」、続けて「一番すきなところ」を書く「〇〇だから△△が一番すきです。」と書く文型があることも提示する。</li> <li>紹介カードの完成を賞賛し、次時への意欲につなげる。</li> </ul>
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>紹介したい本のカードを書く。</li> <li>カードを台紙に貼って、「おはなしどうぶつえん」をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「題名」「作者」「登場人物」「好きなところと好きな理由」などについて書くことができるカードを用意しておく。</li> <li>文と文の続き方に注意しながら、絵本を紹介する文章を書かせることができるよう、カードの形式を工夫しておく。</li> </ul>
三次 充実感をもつ	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>「おはなしどうぶつえん」の紹介カードを見て、友達が紹介している絵本を読んだり、感想カードを書いたりする。</li> <li>学習のふりかえりをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感想カードを書かせる前に、「相手を書いてもらってうれしい内容」「相手が紹介カードを書いてよかったと思える内容」にすることを約束する。</li> <li>紹介カードを読んだ感想だけでなく、紹介されている絵本を読んだ感想も交流させる。</li> <li>教材文や絵本を読んで、自分の考えを積極的に書いたり発表したりしたかをふり返らせる。</li> </ul>
	特活	<ul style="list-style-type: none"> <li>「おはなし どうぶつえん」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書集会の会場に掲示し、お知らせと感想などのお願いをする。</li> </ul>

(読書集会)	を掲示し、全校児童との交流を楽しむ。	を伝える。 ・紹介カードを読んでほしいことと感想等を付箋に書き貼ってほしいことをお願いします。	・集会後、図書室に掲示する。 ・図書室に行くことや貸出冊数、読書量増加の意欲づけにつなげる。
--------	--------------------	--	---

### 9. 本時の指導 (3/8)

#### (1) 本時の目標

- エルフのことを「ぼくの犬」といっている「ぼく」の気持ちについて、文章の内容と自分の経験とを結びつけて、読み深めることができる。

#### (2) 授業仮説

○「ねりあげる」過程において、一人調べの結果を出し合わせた後、中心発問で挿し絵に着目させ、絵から分かることを話し合わせるにより、ぼくとエルフが「小さい頃から」「いつも」一緒に過ごしたことを理解させることができるであろう。
○「つなげる」過程において、本時での学び(挿し絵から分かること)を「ポイント」として意識させることで、自分が読んだ絵本の挿し絵からもいろいろな気付きを発見させることができるであろう。

#### (3) 展開

過程	学習活動	教師の支援
つかむ 5分	1 学習問題を知る。 単元のめあて(言語活動)を確認する。 学習計画を確かめる。 2 自分なりの課題を確かめる。 3 本時の課題を考える。 4 課題をつかむ。  【課題】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語活動の内容を確認する。</li> <li>・具体物を提示する。(挿し絵)</li> <li>・ノートや教室に掲示している学習計画を参考にさせる。</li> <li>・ノートに書かせる。困っている児童には個別指導を行う。</li> <li>・板書と同時にワークシートに書かせる。</li> <li>・一斉読みをさせ、解決意欲を高める。</li> </ul>
どうして「エルフは、ぼくの犬」なのだろうか。		
しらべる 15分	5 課題解決の見通しを立てる。 (予想)・ぼくが一番、お世話をしたから ・いっしょに大きくなったから ・いっしょにあそんだから (方法)・文を読む。(一・二の場面) ・サイドラインを引く。 ・大事な言葉を○で囲む。  6 見通しを発表し合う。  7 一人調べをする。 ①音読する ②サイドラインを引く。 ③「一番の理由は、これだ！」を書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず、答えの予想から出し合わせる。</li> <li>・方法の見通しを立てる時間を確保する。</li> <li>・これまでに集めてきた「見通し」の掲示物を参考にさせる。</li> <li>・困っている児童には個別指導をする。</li> <li>・1つ見通しを立てた児童には、別の見通しを考えるよう声掛けをする。</li> <li>・全員が1つは見通しを書けたことを確認する。</li> <li>・本時の解決方法を決定し、一人調べの手順を説明する。</li> <li>・困っている児童には個別指導をする。</li> <li>・一斉に一・二の場面を音読し、ワークシートの本文にサイドラインを引かせる。</li> <li>・一番の理由を選んで書かせる。</li> </ul>
広げる 7分 ねりあ	8 調べたことを発表し、相互に検討する。 (ねりあげの手順) ①「一番の理由は、これだ！」に書いていることを発表する。 ②他に根拠となる言葉や文はないか話し合う。 ③中心発問をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導により、指名計画を立てる。</li> <li>・「理由は、これだ！」に書いたことを発表させる。理由も発表させる。</li> <li>・友だちの発表に対して反応をさせる。</li> <li>・恣意的な意見が続いた場合は、全員で関連部分の音読をし、叙述に立ち返って考えるようにする。</li> <li>・「本文」だけでなく、「挿し絵」でも確認させる。</li> </ul>

15分 8分	検 証 深 め る ま と め	◎ 挿絵からは、どんなことが分かるかな。 ④挿絵から分かる「いっしょに」どんなことをしたのかについて話し合う。 ・いっしょに誕生日のお祝いをしています。 ・いっしょにトイレトレーニングをしています。 ・いっしょに気持ちよさそうに寝ています。 ・生まれてすぐの頃からいっしょに過ごしたんだと分かります。 ・体の大きさが同じなので、いっしょに大きくなったんだと分かります。 9 本時の課題を解決し、まとめる。 <b>【まとめ】</b> 「エルフは、ぼくの犬」なのは、小さいころから、いつも いっしょに過ごしたから。	・挿絵を手がかりに、本文に基づき発表させる。 ・友だちの発表に対して反応をさせる。 ・「いっしょに」について深める。 ・「花壇を掘り返す挿絵」についても取り上げ、「家族」について自分の経験と結びつけて考えさせる。 ・くり返し出てくる言葉、「いっしょに」に着目させ、大事な言葉だと気付かせる。 ・自分なりのまとめを書かせ、大事な言葉を追記させる。
	10分 自己 評 価	10 解決過程や結果のよさを味わう学習活動をする。 挿絵本では、選書の決め手にもなる「挿絵」から分かることも、たくさんある。 自分が昨日読んだ絵本の挿絵から分かる大事なことを見つけて書く。 11 課題解決の経過をふり返る。 ・本時の見通しについてふり返る。 宿借りて帰った本を読み、「いいな」と思ったことを書き、その理由も書いてくる。	・本時の学習と三次の言語活動をつなぐことを意図し、「つなげる」では本時の学習で一番「いいな」と思ったことと、その理由について話し合う。 ・挙手で考えを示させる。 ・「課題」「見通し」「まとめ」について自己評価をし、学習のふりかえりをする。 ・「サイドラインを引く」方法は有効だったか考えさせる。 ・宿題と次時の学習の説明をし、意欲をもたせる。

(4) 評価

- 「ぼく」と「エルフ」とのかかわりについて、文章の内容や挿絵と自分の経験とを結びつけて、読み深めることができたか。

(5) 板書計画

<p><b>宿</b> 「一番いいな」登場人物がしたこと(行動)で かだい…?・みとおし…?・まとめ…?</p> <p><b>ふりかえり</b> サイドライン…? さしえ…?</p> <p><b>つなげる</b> 「さしえからわかったこと」</p> <p><b>ボ</b> さしえ</p> <p><b>まとめ</b> 「エルフは、ぼくの犬」なのは、小さいころから、いつもいっしょに過ごしたから。</p> <p>◎ 挿絵では、どんなことが分かるかな。</p> <p>「一番の理由はこれだ!」</p> <p>・ いっしょに大きくなったから ・ いっしょにゆめを見たから</p> <p>挿し絵</p>	<p>本 文</p>	<p><b>一人調べ</b> <b>ねりあげ</b></p> <p><b>見通し</b> <b>予想</b> <b>方法</b></p> <p>どうして「エルフは、ぼくの犬」なのだろうか。          ・ぼくが一番お世話をしたから          ・文をよくよむ。          ・さし絵を見る。          ・いっしょに大きくなったから          ・サイドラインを引く。          ・いっしょにあそんだから          ・大事な言葉を○で囲む。</p>	<p><b>課題</b></p> <p>「ずうっと、ずうっと、大すきだよ」          本のしようかいしよう。</p> <p><b>めあて</b> 「おはなしどうぶつえん」をつくって、</p>
---	----------------	---	---